

堅信準備会 第2回 テーマ「遣わされて使命を果たす」(柴田神父)

Aクラス 2026年5月10日(日) 11:15~12:45 ヨセフ ホール

Bクラス 2025年5月13日(水) 18:45~20:15 ヨセフ ホール

堅信 準備会 第3回 テーマ「教会生活」(高祖神父)

Aクラス 2026年5月17日(日) 11:15~12:45 ヨセフ ホール

Bクラス 2026年5月20日(水) 18:45~20:15 アルペ ホール(信徒会館3階)

堅信 準備会 第4回(ゆるしの秘跡) この日以外にも週日(17時半~18時半)、主日の赦しの秘蹟(9時半~10時半、17時半~18時半)を受けても結構です。

Aクラス 2026年5月24日(日) 11:15~12:45 ヨセフ ホール

Bクラス 2026年5月27日(水) 18:45~20:15 ヨセフ ホール

堅信式

2026年5月31日(日) 10:00~ 主聖堂 アンドレア レンボ 司教司式

集合・受付 8:45~ 岐部ホールのピロティに代父母と一緒に受付をしてください。

リハーサル:9:40~ 主聖堂。 ミサが1時間半くらいの予定、続いて記念撮影、ヨセフホール

で祝賀会(レンボ司教様への質問はレジユメの最後にあります)

テーマ 「遣わされて使命を果たす」

1. 派遣される(聖書から)

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは行って、すべての民を私の弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28：18～20)

イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように、父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言ってから彼ら息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でもあなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」(ヨハネ 20：20～23)

「あなたがたに聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」(使徒書 1：8)

聖霊の働きについては前回の資料を参考にしてください(音楽の活用も1つ)

2. 福音宣教者とは？

カルロ・マリア・マルティーニ『宣教者をそだてるイエス』より 今道瑤子訳 女子パウロ会 1988年 表現を変えています

・「ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。」(エフェソ 4：11) イエスの体(教会)を建てるのを助けるパウロの言う5つの賜物。

・もちろん、賜物は5つに限定はされません。

・「使徒」とは、共同体の最初の土台を置き、それを支える人。

・「預言者」は、共同体にとって今、神の計画は何かを解釈する人。

☆「福音宣教者」は、ケリグマ、良き知らせを告げる人、神の救いを望む新しい信徒を共同体の仲間に加える人。(受堅者もその一人になります)

・「牧者」は、形成された群れを導く人。

・「教師」はカテケージスをもって神学や教えを深める人。

・しっかりとした土台のある共同体（イグナチオ教会の目指すところ）とは・・・これら5つのカリスマがバランス良く発展させる共同体です。

☆新約聖書が示しているように「福音宣教者」の務めは、司祭・シスターではなく信徒によって果たされます。

☆「福音宣教」には、待つよりも出掛ける活動、出向く活動が大切。そのために必要な能力

1. 他者の心に入って行く能力
2. その人が必要としていることを察する能力
3. 目の前の人の信仰の恵みの芽を発見しながら、神に向かう歩みを助ける能力

司祭は、ミサをはじめとする秘跡を行います。社会への福音宣教は、信徒の果たす役割の方が司祭シスターよりはるかに大きいものです。信徒の方が、社会の中に入り込めます。それぞれが持っているタレント（人を楽しませる・助ける・和ませる・・・）を生かして、秘跡以外の分野で社会に福音を告げ知らせましょう。

→いきなりうまくはいかないでしょう。創意工夫を凝らしながら続けましょう！

3. 堅信後の私の働き方

- ・大学4年生の時（1987年）にイグナチオ教会で受堅してから配属先の名古屋へ。
- ・配属当初は6時半の朝ミサに出てから出勤したが続かない。日曜日は仕事（住宅営業）でミサには行けない。
- ・入社4年目：南山教会の「レジオ・マリエ 祈りと奉仕の集い」→筋ジストロフィーの方の入浴の介助、身障者と健常者の垣根がなくなる体験。→司祭召命のきっかけに（前回のお話）
- ・営業の仕事は、業績中心：売れないと居場所がなくなる。（辞めるか？ 追い詰められることも）

<住宅営業マン時代の体験>

1) 大変お世話になったお客様

- ・入社3年目の終わり、議員バッチを光らせた方が住宅展示場に来店。高額物件なのでなんとか契約していただこうと、考えて、夕飯時にアポなしで訪問。
 - ・奇跡的に契約をいただきましたが、完成したお宅はクレームが……。申し訳ない気持ちで深夜、引っ越しの手伝いを一週間。最後「柴田、お前は悪くない。お前のところに頼んだ俺が悪い」
 - ・それでも紹介のお客様を何人もいただき、業績が苦しい時に助けられ……
 - ・イエズス会に入ることになり退社のご挨拶に伺うと、「どうして柴田のところに頼んだかわかるか？」 自分なりの答え……**予想を覆す理由「……」** 頑張ったつもりなのにそんなはずは！
こんなお客様に出会えた感謝。 神様が厳しい業界で続けられるように出会わせてくださった。
 - 「自分の努力」と思い上がらないように。 **「柴田はねちっこいから案外向いてるかもしれない」**
 - 「上京の際には**“柴田がしょぼくれてないか”**食事に誘っていただいた」
- お客様に出会えたからこそ……営業職を続けられた。花向けの言葉をいただいた。

2) 苦勞もしましたが報いも感じたお客様 富士市 (100 坪の 2 世帯住宅を建てていただいた)

・打ち合わせの途中で、座卓を蹴飛ばすことも・・・毎回の打ち合わせで何が起きるか? 緊張しっぱなし。

「残金 (4000 万円) は建物の出来を見て支払う」今からできることは? 「(専門のクリーニングは入っていましたが) 100 坪の家の床、掃除機をかけて雑巾掛け。ガラスは新しい雑巾でピカピカに。食器棚にはそのままスプーンなど入れられるように。夜 9 時～2 時、一回帰って朝 6～8 時。受注までの経緯、竣工までのことを思い出しながら、マリア様の心で、掃除を」とにかく綺麗に。

いざ、引き渡しの時:前に家を建てた時、騙された。今度は失敗したくない。お願いしてよかった。

知り合いで家を建てる人がいたら是非、紹介したい。

退職の挨拶:柴田さんにはそちらの方が向いてる。静岡聖光学院の卒業なのでカトリックのことは

知ってます。将来、神父さんに家を担当してもらえて嬉しい。

人生の目標 1

ロザリオの祈り (よろこびの奥義)

第二の奥義

マリアは大天使から、親戚のエリザベトが神の恵みによって子を宿したことを知り、ユダの山地にエリザベトを訪問する。

この1連をささげて、自分のことよりも、いつもよろこんで他人に奉仕する愛の心が深まることができるように聖母マリアの取り次ぎを求めましょう。

マリア様の心でボランティアをする→会社でも、生き方でも、と発展していく。→福音宣教に

4. 私の堅信名 (堅信は 1987 年) パウロ 働く姿でも宣教したパウロ

R.F.ホック『天幕づくりパウローその伝道の社会的考察』より 笠原義久訳 1990 年 日本基督教団出版社 (表現を変えています。)

パウロは、使徒たちの中でも特別な存在です。ペトロたちのように生前のイエス様を知りません。他の使徒たちが共同体の支援で生活していたのに対して、パウロは生活費を自分で稼いでいました。雄弁な姿だけでなく、地道に働く姿でも宣教をしていました。テント職人として苦勞しながら宣教したパウロから、私たちが職場で宣教するヒントを得ましょう。

○聖書箇所から

宣教旅行中、パウロが天幕づくりによって自ら生計を立てていたことが聖書箇所からわかります。どれも苦勞して働きながら宣教したパウロを想像させます。

「パウロはこの二人（アキラとプリスキラ）を訪ね、職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。」（使徒 18:2～3）

「兄弟たち、私たちの苦勞と骨折りを覚えているでしょう。私たちは誰にも負担をかけまいとして、夜も昼も働きながら、神の福音をあなた方に宣べ伝えたのでした。」（1 テサ 2:9）

「わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。ご存知のように、わたしはこの手で、わたし自身のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。あなた方もこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエスご自身が『受けるより与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」（使徒 20:33～34）

「今の今までわたしたちは、飢え、渇き、着る物がなく、虐待され、身を寄せる所もなく、苦勞して自分の手で稼いでいます。侮辱されては祝福し、迫害されては耐え忍び、ののしられては優しい言葉を返しています。今に至るまで、わたしたちは世の屑、すべてのものの滓とされています」(1 コリ 4:11~13)

「パウロは、自費で借りた家に丸2年間住み・・・」(使徒書 28:30)の箇所から、人生の終わりに近いローマでの拘留中でさえ、パウロは働いていたことが想像できます。

○どんな働き方だったか？

皮細工師の仕事は、自由な身分の仕事でしたが、教育のない者でも就け、体に良くない仕事と見なされていました。宣教先でパウロは、奴隷のように仕事台に身をかがめ、奴隷たちと並んで作業していました。実際の働き振りについては、「夜も昼も働きながら・・・」(1テサ 2:9)とあります。

日の出前から働き始め、日中殆んど働き続けていました。当時の文献から通常の職人が、日中だけの労働時間だったことが推測できます。パウロは普通しない長時間労働をしていたのでしょう。待遇については、「飢え、渇き、着る物がなく、虐待され、身を寄せる所もなく、苦勞して自分の手で稼いでいます。」(1 コリ 4:11~13)の聖書箇所にあるように、経済的に自立はしても、生活は厳しかったことが想像できます。

○働くパウロへの評価

聖書には、働くパウロが侮辱され、尊ばれなかったことが述べられています。「あなた方は尊敬されているが、私たちは侮辱されている。」(1 コリ 4:10~12)

その理由には、職業によるものがあったと考えられます。なぜなら、当時、財産と地位があり、選択の自由がある者(自由人)ならば、パウロのような手仕事を選択しなかったからです。自由人に相応しい学芸の一つ(修辞学、哲学、政治学など)を教えて生活の足しにしたでしょう。だから、パウロがいくら骨身を惜しまず働いても、知識人からはそのような職種に就いていること自体で蔑まれていました。社会的に下層階級「帝政ローマ時代の職人階級」に位置づけられました。ある面、他の使徒たちと同様に共同体から経済的支援を受けていた方が評価は高かったかもしれません。けれども逆に、都市の純朴な貧困階級が喜んでパウロの話に耳を傾けます。なぜなら、働く苦勞がわかっていただけからです。パウロの身近な話が共感を生み、話を聞く姿勢を作っていました。

○仕事と宣教の関係

「兄弟たち、私たちの労苦と骨折りを覚えているでしょう。わたしたちは、誰にも負担をかけまいとして、夜となく昼となく働きながら、神の福音をあなた方に宣べ伝えたのでした」(1 テサ 2:9)

共に労苦した仕事場がもう1つのパウロの宣教の場でした。働く姿で宣教していました。身につけていたテント職人としての技術がパウロ独自の宣教スタイルを生みました。

パウロの仕事ぶりは当時の人々だけではなく、特別な才能がなく働く人たちにも共感を与えます。

私たちの日々の労働によって、神の計画が実現されることを教えてください。

キリスト教的 労働理解 「神の創造のわざへの参与」

○パウロの自由さ

パウロは、異邦人の宣教のリーダーとして尊敬されることもあれば、職人として貧しく暮らすこともできました。その自由さに倣いたいものです。

「私は、自分の置かれた境遇に満足することを習い覚えたのです。貧しく暮らすすべも、豊かに暮らすすべも知っています。満腹していても、空腹であっても、物が有り余っていても不足していても、いついかなる場合にも対処する秘訣を授かっています。」(フィリピ 4:12)

○まとめ

私たちの多くは、キリスト教とは関係のない職場で働いています。そのような場所で宣教をするのが難しいと感じたり、諦めの気持ちがあるかもしれません。直接、信仰に関わる内容が言い出しにくいからです。けれども、そんな私たちにテント職人をしながら、福音を伝えたパウロは勇気を与えてくれます。作業仲間と同じ条件で、黙々と働く姿で「この人はどこか違う。何が源なんだろう？」と奴隷たちは関心を持ったでしょう。

→ある哲学の先生（暖炉のある立派なお宅）

・柴田さんの営業はどこか違っていました。宗教性を感じました。私は、ドイツで哲学を学び、イエズス会の神父様にもお世話になりました。選んだ道を歩み抜かれてください。

○働くスタンス

・「人様に喜んでもらえない仕事なら最初からするな」と教えてくれた父。

- ・お客様に喜んでもらえる仕事を！
 - ・同僚にはカトリック信者と公言していました。
 - ・社内からも次第に「自分が家を建てるなら柴田さんに営業してもらいたい」と言われるように。
 - ・「人の役に立つためには何をしたらいいか？」「人に喜んでもらえるためにはどうしたらいいか？」
- 「職場で福音を宣教するにはどうしたらいいか？」 試行錯誤が自分を成長させてくれました。

5. 堅信名を考える ベルナデッタ：信仰の生命線はロザリオ

ベルナデッタ（1844年1月7日～1879年4月16日 35歳）

ナポレオン3世の時代のフランス。貧しい農夫の娘ベルナデッタは4人の弟妹の長女でした。両親には決まった仕事はなく、牢獄のような狭くて不衛生な住まいで苦しい生活を送っていました。

1858年2月11日（14歳の時）仕事で疲れた父を温める薪がなくて、妹たちと薪拾いをしていた時。ベルナデッタに貴婦人、聖母マリアが現れます。「これから15日間、毎日ここへいらっしゃい。あなたの幸せは後の世で約束しましょう。」 最初の聖母マリアの出現です。

弟、妹たちの世話をしていたベルナデッタはほとんど字が読めません。信仰はもっぱらロザリオでした。家族は毎晩、暖炉の前に集まって、大きな声でロザリオを唱えていました。無学でも、ロザリオを熱心に唱えるベルナデッタに聖母は現れました。

貴婦人（聖母）に会ったことを否定する、警察、政治家、医師、シスター、司祭たち。時に脅されても ベルナデッタは「あの方との約束を守ります」とひるみませんでした。 そのうちに、泉から湧き出る水で、病気が治る、奇跡が続き、ルルドは一大巡礼地になりました。聖母は18回、ベルナ

デッタに現れました。ここまでの話はよく知られていますが、興味深いのはその後です。

将来は家政婦となって、結婚も考えていたベルナデッタに主任司祭（ルルド教区の主任司祭、ペラマール神父）はこう言います。

「いいか、君に聖母マリアは出現した。君に使命を託されたんだ。その運命から逃げて、メード（家政婦）でいることは無理なんだよ。神が君を選ばれた。君も神を選ぶべきだろう？ 違うかね？
ヌヴェール修道院のシスターは美しく、気高く、慎ましやかな生活を送っている。そこに入りなさい。」

ベルナデッタには、将来を約束できる好青年（アントアンは好青年）がいたようでしたが、司祭の勧めに従って、シスターになることを選びました。

しかし、修道会に入ってお世話係についたのは、子供の頃からベルナデッタへの嫉妬心に駆られたマリー・テレーズでした。

シスター マリー・テレーズ：「あなたは俗世でもてはやされた人です。フランス中の人からね。
無名になることが嫌なんでしょう？ 常に名高くいたいのです。昔から、神に選ばれている人は、
苦しみを経てきた人です。私は 眠らず、休まないでここまで生きてきました。お祈りで喉を枯らして、手は荒仕事で膨れ上がって、身体中が痛みます。なぜ、私が選ばれないのでしょうか？ 苦しんだ私が聖母マリアに会えず、苦しまないあなたがどうして会えるのです？

膝の腫瘍に加え、結核も患い、苦しみながら修練に耐えるベルナデッタはだんだんと弱っていきま
す。もう先が長くはないことを悟った時、同じ修道院のシスターはベルナデッタに勧めます。「ル

ルドに行きましょう。ルルドの水が、あなたを楽にしてくれるでしょう。」 しかし、ベルナデッタは「わたしには効きません」。シスターが「なぜ、あなたには効かないの？」 ベルナデッタ 「あなたの方は、あなたの幸せは後の世で約束しましょう」と言われました。わたしには効きません。

私なら「自分が掘り当てた泉の恩恵に与って助かりたい」と思ってしまいます。でもベルナデッタは違いました。聖母マリアからの「あなたの幸せは後の世で約束しましょう」の言葉に最後まで忠実でした。「わたしの幸せは後の世で」これがベルナデッタの“道”でした。

ベルナデッタの示した“道”は私たち遠く感じるかもしれませんが、彼女の祈りの生命線だったロザリオを唱えられます。

洞窟の前でぎまぎまいて、ロザリオを祈るベルナデッタ。彼女が祈りを捧げる姿に、人々は心を揺れ動かされました。民衆には聖母が見えなくてもベルナデッタの祈る姿に「聖母の存在」を見ていました。

ベルナデッタは、苦しみを甘んじて受け、罪人のために祈り・償いをし、ロザリオを繰り返しながら信仰の奥義を絶えず黙想しました。そして独自の“道”を生き抜いて、天の国に入りました。

「わたしはどのような“道”を歩んでいるのでしょうか。信仰を生きるということは、部分的にでも「わたしの幸せは後の世で」という生き方になるのでしょうか。

堅信名に「信仰者としてどのように生きるか？」願いかけて決めましょう。

堅信名は できるだけ堅信準備会の第三回までに決めてください。(限られた時間ですみません)

A クラス 2026年5月17日(日) 11:15~12:45 ヨセフ ホール

B クラス 2026年5月20日(水) 18:45~20:15 アルペ ホール(信徒会館3階)

6. まとめ 受堅者の使命

- ・宣教の場は社会：「職場」「家庭」・・・信徒にしかできないミッションです。
- ・けれども、職場にカトリック信者がいることは少ない。一人で宣教するのは、勇気がいります。
- ・聖霊の力(音楽でインスピレーション)、知恵と勇気をもらいながら、毎日宣教の場に乗り込みましょう。(創意工夫が大切)
- ・受洗がゴールではなく、堅信が信仰の恵みのピークでもありません。
- ・この先、もっともっと・・・ 私は1987年に堅信を受けました。それから39年・・・
皆さんの5年後、10年後、30年後? 信仰の恵みをたくさんいただけるように!
- ・堅信はそのスタート!

7. 「ゆるしの秘跡」の準備 A クラス 5月24日(日) 11:15~12:45 ヨセフ ホール

B クラス 5月27日(水) 18:45~20:15 ヨセフ ホール

対象はこれまでにゆるしの秘跡を受けてない方ですが以下の文をご覧になって授ってください!

ゆるし秘跡の改善(長い告解 3つの告白)

カルロ・マリア・マルティーニ『宣教者をそだてるイエス』今道瑤子訳 女子パウロ会 1988年(表現を変えています)

教会は「罪」と「罰」をセットで考えるのではなく「罪」と「恵み」をセットで考えます。ゆるしの秘跡は「罪の状態」「何かに囚われている状態」から「恵みの状態」に戻るためのものです。このゆるしの秘跡、昔からの受け方に問題も感じてなくて、ゆるしが深く入っている人もいます。

でも、うまくいかない、物足りなさを感じている人もいます。問題は2つ考えられます。①形式的になって効果を感じない ②秘跡をうけた後、生活が変わらない。 この2点があります。

ある聖書学者は、2つの問題を解決するために「長い告解にしたらどうか？」と提案しています。長い告解と言うのは、告解を3つ「感謝の告白」「生活の告白」「信仰の告白」に分ける仕方です。

感謝の告白

ゆるしの秘跡の問題点は、気が重くなることです。「自分のどこがまずかったか？」「何を怠ってしまったのか？」と考え始めると、気がめいてきます。「これだけ頑張ってるのに、神様はさらに要求されるのか？」と身構えてしまう人もいるかもしれません。そうではなくて、ゆるしの秘跡の最初は、「神様への賛美・感謝」から始めます。「私の人生に神様がどう関わって下さったか？」最近、神様がどう私を助けたり励ましたりして下さったのか、を振り返ります。感謝も賛美も全くないという方は、特別苦しい状態か、神様からの恩を何も感じなくなっているので神父さんに相談して下さい。でも、多くの方は感謝することを見つけられると思うので、ゆるしの秘跡を「賛美と感謝の告白」から始めて見て下さい。

生活の告白

続いては「生活の告白」です。日頃の生活の中で重荷になっていること「自分はダメだ」とか縛っているくびきを話します。心に重くのしかかっていることに、自分の弱さや至らなさも絡んでいたらそのことをありのままに打ち明けましょう。私たちは、くびきに縛られて「恵み」から離れて「罪の状態」に陥ってしまいます。神様は、ゆるしの秘跡を通して私たちに自由にしようとされていますが、この苦しい部分があるままだとゆるしの秘跡を受けても生活は変わりません。「罪」に

陥り「恵み」から離れるには、人によって大体パターンがあります。たとえば、「人と同じことをしてないとダメ」とか「完璧でないとダメ」とか、このようなくびきに知らず知らず縛られていきます。無気力になって前に進めなくなります。そこから脱するには「妨げ」と「助け」を見分けることが鍵になります。「妨げ」は「やらないとダメだという使命感」かもしれません。あるいは「自己はいくら頑張ってもこの程度」という投げやりな気持ちかもしれません。では、反対の「助け」があるでしょうか？ 幼稚園で働いて私にとっての「助け」、前に進ませてくれるのは、子どもたちの柔らかくて小さな手です。「一緒に遊ぼう！」「一緒にご飯食べよう！」と誘ってくれる小さな手です。その感触を思い出すと「自分はダメだとか」という縛りから解かれて「もう少しやってみようか！」という気持ちになります。「助け」をよく見て「妨げ」を脇にやることです。

信仰の告白

最後は「信仰の告白」です。「神様、私はこんなに弱いですが、どうか受け入れて下さい。あなたに最後までついていきたいのです。どうか私を自由にして下さい」と神様に願います。

ゆるしの秘跡のモデルは、放蕩息子のたとえ話にあると言われています。家で待つお父さんは、まだ遠くにいる息子を見つけてゆるして、祝宴までしました。同じように神様は、初めから私たちをゆるすと決めていらっしゃる。神様は、私たちが心の重荷から解かれて自由になることを願っています。ゆるしの秘跡を授ける司祭も、みなさんが神様の励まし、あわれみ深さを感じ直して、生活が変わることを願っています。

参考文献

カルロ・マリア・マルティーニ『宣教者をそだてるイエス』今道瑤子訳 女子パウロ会 1988年

カルロ・マリア・マルティニー『パウロの信仰告白』今道瑤子訳 女子パウロ会 1990年

R.F.ホック『天幕づくりパウローその伝道の社会的考察』笠原義久訳 1990年 日本基督教団出版社

ベルナデッタに関わる参考資料・参考文献

『聖処女』 1943年製作 158分 モノクロ映画

<https://www.amazon.co.jp/聖処女-DVD-ジェニファー・ジョーンズ/dp/B0007TFB62>

<https://press.moviewalker.jp/mv4953/>

『ベルナデッタとロザリオ』 アンドレ・ラヴィエ著 ヌヴェール愛徳修道会訳 ドン・ボスコ社 1984年

『酒井しょうこと巡る 聖母マリアに出会う旅 フランス 3人の聖女を訪ねて』 酒井しょうこ著 亜紀書房 2018年

参考動画

https://www.youtube.com/watch?v=xPm_SzY5MLE 2:27

風に吹かれて街歩き ベルナデッタの聖地ルルドを訪ねて

<https://www.youtube.com/watch?v=XD7kygVfR9M> 7:39

【聖ベルナデッタ】聖母マリア ルルドの泉の奇跡

https://www.youtube.com/watch?v=rGP_z4W-gnQ&t=168s 8:04

【聖母マリア】ルルドの泉の奇跡 聖ベルナデッタ・スビル

<https://www.youtube.com/watch?v=syativaomV8> 7:40

4K【奇跡】 ルルドの奇跡 a miracle of Lourdes 【祈り】

祝賀会について：みなさんそれぞれにレンボ司教様に投げかける言葉を用意しましょう。

Q 堅信に当たってどのような準備をしてきましたか？

Q 堅信を受けた後、どのような感想を持ちましたか？

Q 『心の温泉 神様と永遠に生きる』（アンドレア・レンボ著）を読んでどのような感想・質問がありますか？（堅信式までに全部読みきれなくても構いません）

